



AUE News

2012年4月15日

第 38 号

編集・発行
愛知教育大学広報部会

TEL 0566-26-2738

FAX 0566-26-2500



目次

● 行事予定(4月16日-30日)

● トピックス

- ・中国・湖南師範大学と学生交流協定を締結
- ・「はやぶさ」帰還カプセル特別展で「3D宇宙の旅」を上映
- ・新採用職員研修会
- ・入学式
- ・新竹大学学長が本学を訪問
- ・愛知教育大学・静岡大学教育学研究科共同教科開発学専攻合同ガイダンス

- ・目からウロコのアート展 selected
- ・共同大学院博士課程第1期生と役員との懇談会
- 教育復興支援学生ボランティア報告
- お知らせ・報告・投稿
- ・防災・防火委員会からお知らせ
- ・食まるファイブの縫製教材を開発
- ・附属図書館で俳諧一枚摺を展示
- ・教育支援サイト「簡単工作100選」公開
- ・催しもの案内

行事予定(4/16-30)

- 17日(火) 経営協議会(10:00~ KKRホテル名古屋)
役員部局長会議(13:00~ 学長室)
大学改革推進委員会(16:40~ 第三会議室)
- 18日(水) 教員人事委員会(13:30~ 第五会議室)
財務委員会(15:30~ 第五会議室)
- 19日(木) 教育実地研究専門委員会(15:00~ 第五会議室)
- 20日(金) 附属学校運営委員会(15:00~ 第三会議室)
- 24日(火) 役員会(13:30~ 学長室)
- 25日(水) 教授会(13:30~ 第一会議室)
- 26日(木) 安全衛生委員会(16:40~ 第五会議室)

トピックス

中国・湖南師範大学と学術交流協定を締結(3/30)

本学は、3月29日(木)に中国の湖南師範大学と「学術交流に関する協定」を締結した。同協定の締結により、本学の海外の協定締結校としては22校目、中国では、南京師範大学、香港教育学院、東北師範大学に続き、4校目となる。



調印式は、湖南師範大学で举行され、本学からは、松田正久学長、宮川秀俊国際交流センター長、時衛国教授(外国語教育)、同センターの前川が出席。湖南師範大学からは、劉湘溶学長、唐建文国際交流処処長および国際交流処関係者が出席した。

調印式では、劉学長から「両大学は、ともに教員を養成している大学であり、家族である。愛知教育大学は、日本の有名な教員養成大学として知られている。今後、両大学によるすばらしい交流によって新しいページが開かれることを期待する」といった熱烈的な歓迎の言葉を受け、松田学長は、『山椒は小粒でもぴりりと

辛い』のことわざを紹介。「本学は、そういう大学を目指して頑張っていきたいと考えている。この協定締結により両大学学生の若い力で世界を引っ張っていけるよう交流を深めていきたい」と応え、参列者が見守る中、両学長が協定書に署名して、協定が成立した。

湖南師範大学は、湖南省の省都である人口約 650 万人の長沙市にあり、24 学部、修士課程（184 プログラム）、博士課程（110 プログラム）を有し、学生数約 3 万 6000 人、教員数 1600 人、五つのキャンパスからなる大規模な大学。海外協定校は 80 大学あり、日本の大学としては、8 校（うち国立大学は、千葉大学、東京学芸大学）と協定を締結済である。



調印式に先立ち行われたキャンパス見学では、時間の都合上、留学生宿舍、講義棟、図書館、体育館などの外観を見ながらの散策のみであったが、とても広く、風光明媚なキャンパスであった。

（教育創造開発機構運営課副課長 前川由光）



「はやぶさ」帰還カプセル特別展で「3D 宇宙の旅」を上映(3/30-4/3)

小惑星探査機「はやぶさ」の帰還カプセルが、3 月 30 日（金）～4 月 3 日（火）、刈谷市総合文化センターで特別展示され、本学も澤武文研究室（理科教育）が協力。オープニングでは澤教授がテープカットに参列し、同研究室のゼミ生もボランティアで「3D 宇宙の旅」を上映。5 日間で約 3300 人の鑑賞者があり、好評を得た。同研究室からそのレポートが寄せられた。



＊



＊

はやぶさボランティア奮闘記

「はやぶさ帰還カプセル特別公開 in 刈谷 2012」で Mitaka の 3D 上映をすることが、澤研究室である私たちのボランティア活動でした。Mitaka では、地球から宇宙の果てまでを自由に移動でき、宇宙の旅をすることができます。私は、操作に全く慣れておらず、大勢のお客さんの前で操作するのは初めてでした。特別公開が開かれる前に何日か練習をしましたが、いざ当日に

なると頭が真っ白になり、何度も何度も資料を読み返しました。すると、緊張で落ち着かない私を見てお客さんが、「頑張って、期待しているよ！」と声をかけてくださいました。その声かけが嬉しく、緊張がほぐれ、今でもお客さんに感謝しています。上映が終わった後には「良かったよ、聞き取りやすかった。」と、また声をかけてくださいました。特別公開の 5 日間のどの日でも、どなたかが「すごいね、よく勉強されているね」「楽しかったよ」などと声をかけてくださいました。その度にやりがいを感じることができました。また機会があれば、宇宙の知識をもっともっと増やし、より楽しんで宇宙を知ってもらえるよう頑張りたいです。



（現代学芸課程自然科学コース 宇宙・物質科学専攻 4 年 川原綾果）

新採用職員研修会(4/2)

2012 年度新採用職員を対象にした研修が、4 月 2 日（月）午後 1 時から、第五会議室で行われた。



同研修は、新採用の教職員に本学の教育研究のあり方や諸課題などについて説明し、職務遂行に必要な基礎知識を習得してもらうことで、大学運営の理解を深めることを目的に、毎年この時期に実施。今回は2011年4月2日以降、2012年4月1日までに採用された教員、事務職員合わせて34人が参加した。

講師は松田正久学長をはじめ、各担当理事、監事、附属学校部長。それぞれ35分～20分で大学の概要な

どを説明した。

松田学長が「国立大学法人愛知教育大学の目指すもの」と題して、本学の概略・理念、国立大学法人の仕組み、第二期中期目標・中期計画の達成、本学の位置づけ、財務など、大学の現状を説明。特に学生への対応について、教員には「信頼関係をきちんとつくってほしい」、事務職員には「学生一人ひとりの立場に立って対応を」と言及した。

説明は午後5時ごろまで行われ、その後の茶話会では、参加者や講師が自己紹介をしながら歓談した。

入学式(4/4)

2012年度入学式が4月4日(水)午前10時30分から、本学講堂で行われた。

今年度の新生は、教育学部957人(教員養成課程708人(3年次編入2人を含む)、現代学芸課程249人)、大学院は、教育学研究科修士課程118人、教育実践研究科(教職大学院)33人、1年課程の特別支援学校特別専攻科23人の1,131人。今年度から、新たに本学と静岡大学との共同設置による大学院教育学研究科博士課程教科開発学専攻が開設され、これには両大学で10人、うち本学には4人が入学。学部・大学院を合わせた入学生は総計1,135人。

前日までの春の嵐は止み、所々に春の陽が差し、講堂テラスでは在校生によるクラブの勧誘の音が響く中で、入学式が開始され、この日は1,119人の入学生が出席。管弦楽団が「アイネクライネナハトムジーク」(モーツァルト作曲)を厳かに演奏した後、学長の「1,119名の入学を許可します」の入学許可宣言。続いて、入学生を代表し、初等教育教員養成課程の鈴木健太さんが入学生宣誓を行った。



松田正久学長は、告辞の中で、愛知教育大学が「教員養成を主軸に教養教育を重視する大学である」ことの内容を説明し、加えて、国際人権規約(A規約)第13条C項の高等教育の「漸進的無償化条項」の留保を政府が撤回することを高く評価、教育の機会均等を保障する国立大学の役割について述べた。さらに教養を身に付けることの重要性に触れ、東日本大震災や福島第一原発事故を例に「なぜ、どうして」と問うことのできる人間に成長していただきたいと期待を述べた。

また、今年度、新設された博士課程の役割と期待についても言及した。

この後、役員部局長の紹介、混声合唱団による学生歌が披露され、式は無事に終了。式の様子は、朝日・中日・毎日の各紙で報道され、地元ケーブルTVのKATCHでも報道された。

午後6時30分から行われた夜間入学式には、教員など働きながら学ぶ大学院入学生16人中、15人が出席した。

(告辞全文は http://www.aichi-edu.ac.jp/intro/message/letter_120404.html を参照)。

新竹大学学長が本学を訪問(4/5)

台湾新竹市の国立新竹教育大学の陳恵邦学長が4月5日(木)午後、松田正久学長を表敬訪問した。

新竹教育大学関係者の来学は、今年2月の教育学部長一行の訪問以来で2回目。国際交流センターから宮川秀俊センター長をはじめ担当職員の方々、理科教育講座から吉田淳教授、平野俊英准教授が同席し、約1時間にわたって両大学長の対談が行われた。

両大学の沿革や組織、学生教育や学術研究での国際交流の推進、大学経営等の現状に関する情報交換を中心に対談は展開された。その後、陳恵邦学長から、「昨今、日本の大学との交流協定整備を戦略的に進めているが、両大学教職員の数年にわたる教育研究交流の存在を踏まえて理科教育分野では本学と交流協定の締結を希望する」旨の提案があった。本学としては、「当該の教育研究交流の推移、ならびに国際交流センターでの交流協定整備の検討結果を踏まえた上で、対応をお示ししたい」という見解が示された。

陳恵邦学長は朱燕雪夫人を同伴されての来日で、松田学長との対談終了後は理科教育講座の教職員と本学キャンパスの施設見学をされたほか、低気圧の通過でやっと開花が進んだ洲原公園の桜花を観賞された。翌日には、音楽教育分野での交流協定の締結式のために洗足学園音楽大学へ向けて上京された。

(理科教育講座准教授 平野俊英)



愛知教育大学・静岡大学教育学研究科共同教科開発学専攻合同ガイダンス(4/8)

愛知教育大学と静岡大学が共同で設置した博士課程共同教科開発学専攻の第1期生に対する合同ガイダンスが4月8日(日)午後1時から浜松市文化振興財団研修交流センターで行われた。



ガイダンスには、入学者10人と専攻の教員27人、職員10人が参加した。冒頭のあいさつでは、共同教科開発学専攻連絡協議会議長の都築愛知教育大副学長が「皆さんは、教育系大学・学部では全国で初めて共同設置された大学院の第1期生です。教員の資質能力の向上という社会的要請や教員養成システムへの高度化という教育政策を実現していくために本専攻は、設置されました。この共同博士課程は、他大学の連合博士課程とは異なり、講座制によらずに教員の研究の強みを活かし、教科開発学という学際的な新たな学問領域の確立を目指します。この博士課程において博士論文を完成することが研究者としての出発点となるので3年間頑張ってください」と激励した。教員・事務職員および入学生全員が自己紹介を行い、学務委員から履修方法、両大学の職員から各大学の手続き等の説明がなされた。

本共同専攻では、1人の学生に対し、両大学で構成される主指導教員、副指導教員、指導補佐教員が共同して指導する体制となっており、この日顔合わせを行った後、学生と指導教員で今後の研究の進め方等について話し合いが持たれた。5月26日(土)に共同教科開発学専攻開設記念式典が名古屋市中で開催されるが、その準備が現在、進められている。

(教務課大学院グループ)

目からウロコのアート展 selected (4/11-27)

美術科2年生の授業「彫刻実技Ⅱ」で制作された現代アート作品を紹介する「目からウロコのアート展 selected」が4月11日(木)から、附属図書館2階のアイ♥スペースで開催中。4月27日(金)まで。入場無料。



「目からウロコー」は、授業を担当する加藤マンヤ講師が企画し、刈谷駅前アクアモール内の「スペースAqua（アクア）」で、2010、2011年に開催。今回は過去2回の出品者の中から厳選したメンバーによる特別展。4年生6人、3年生1人と加藤教授による、計21点が展示されている。

「ルービックキューブ」は、一見するとルービックキューブでも、よく見るとパーツが一つずつ多かったり、少なかったり。「stoneglass」は砂時計ならぬ、“石”時間で、時計の機能はないものの、不思議な時を感じさせる。「白米」は星条旗柄の茶碗に、白塗りの兵隊のフィギュアがてんこ盛り、箸置きも兵士、箸の先には抑えつけられた緑色の兵士のフィギュアと、風刺に富んだ作品。ほとんどが見慣れた素材や物質を使って、日常ほとんど意識しない日用品の本質を再検討し、アイデアを練ってユーモアたっぷりに作り上げたものばかりで、訪れた人の目を楽しませている。

出品者の一人、山本真知子さんは「現代アートというとなんと難しいと思われそうですが、どれも伝えたいコンセプトがあるので、それを発見してもらえたらいいですね」と見どころをアピールした。

「ルービックキューブ」は、一見するとルー



共同大学院博士課程第1期生と役員の懇談会（4/11）

愛知教育大学と静岡大学の共同設置による大学院博士課程共同教科開発学専攻が4月1日



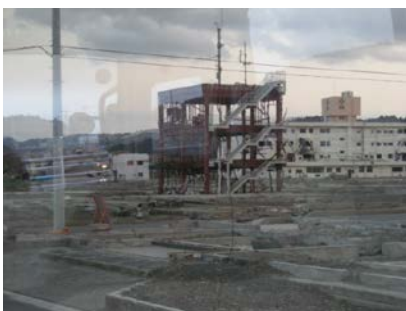
に開設されました。4日（水）に入学式が行われ、第1期生、4人が入学しました。懇談会は、11日（水）の午後6時30分から夕食会も兼ねて3人の学生と松田正久学長、折出健二理事、岩崎公弥理事、都築繁幸理事が歓談しました。

松田学長から「博士課程の設置は、本学の悲願でした。健康に留意してぜひ、博士論文を完成してほしい」と激励され、学生からは「貴重な機会が与えられました。気を引き締めて研究を進めていきたい」との決意が述べられました。4人は、現在、大学や中学校で研究や教育に携わっており、これからは、土、日曜日に開講される講義を受講し、3年間で博士論文を作成していきます。今後の研究成果が期待されます。

（愛知教育大学教育学研究科共同教科開発学専攻科代表 都築繁幸）

教育復興支援学生ボランティア（報告）

本学から東日本大震災被災地へ派遣した「2012年3月期教育復興支援学生ボランティア」が3月18日（日）～22日（木）、宮城県南三陸町で活動を行いました。その報告が、今回のボランティアリーダーを務めた新鶴田道也さんから寄せられましたので紹介します。



* *

志津川中学校ボランティア体験記

「もうちょっとで何も無くなりますよ」。ベテラン運転手がそう言ってしばらくすると、一面の更地と、所々にまとめ

られたがれきの山が目に入ってきた。まだこれほどまでに津波の爪跡が残っていたのかと衝撃を受けた。愛知で暮らしている私は、被災地の様子などを報道でしか知れ得ない。震災から1年、徐々に少なくなる報道によって抱いていた、もうだいぶ復興したのではないかという間違っただけの想像は、一瞬にして消え去った。

南三陸町はこのような状態であったが、志津川中学校の生徒たちはとても元気で活発な子ばかりだった。そのような生徒たちに、授業中における学習支援（テーチング・アシスタント）、部活動指導・参加、清掃やワックス掛けなどの作業も行った。どれもやりがいのあるものばかりだった。学習意欲の少ない生徒も、マン・ツー・マンで教えれば何とか取り組むことができた。

ボランティアのメンバー構成は、本学から5人、東北学院大学から3人。本学は、保健体育の3年生が2人、教育科学（理科）の2年生が1人、臨床福祉心理の1年生が1人、理科の大学院1年生が1人である（学年は23年度当時）。東北学院大学の学生は全員、数学の3年生。8人は同じ宿に泊まり、ほぼ毎日、意見交流を行い、東北学院大学の坪田先生も参加し、特に力の入った日もあった。

今回のボランティアでは、被災した生徒たちを支える先生方の様子も知ることができた。ボランティア初日には、「ごらんの通り、何も復興していません」の一言で始まった、校長と教頭の講話を聴いた。志津川中学校の3.11とその後の様子、生徒たちの様子や家庭の事情なども含め、とても勉強になる内容だった。講話を通して、防災教育の欠点、避難所となった学校の管理運営、被災した際のトイレの問題と対処法、子どもの被害と精神状態は比例しないということ、先生方も被災しながらも対応されていることなどを学んだ。



南三陸町が完全に復興するには今後さらに時間とお金がかかるだろう。志津川中学校の生徒も、やがて地元の復興の中心となって携わっていくに違いない。私には残念ながらこの町を復興させることはできないが、いくらかの支援をすることはできるだろう。自分のできること、やるべきことを見極め、行動に移すことの大切さを学んだ1週間だった。

（大学院教育学研究科 理科教育専攻 2年 新鶴田道也）



お知らせ・報告・投稿

防災・防火委員会からのお知らせ

防災・防火委員会では、地震、台風等の自然災害の発生または発生することが予測される場合の初期対応、緊急通報、情報伝達などの方針・策定を検討してきました。

その中で、学生配布用として発行してきた「地震防災ハンドブック」を、より身近なものとするために、次のように改善しました。

- (1) 従前の冊子（紙媒体）からPDF版とした上で、本学ホームページに掲載し、常に閲覧可能な状態としました。
- (2) 学生配布用はこれまでのA5サイズからポケットに収まるサイズとし、内容も地震発生時の対応や救命措置、災害時の安否確認方法、学内防災マップなどを分かりやすくコンパクトにまとめました。

また、東海・東南海・南海地震などの活動が危惧される大規模地震に備えるため、7附属学校園を含む8カ所に「緊急地震速報システム」を導入しました。このシステムは、一定規模以上（震度5弱に設定）の地震に対して学内放送設備を通して注意喚起するもので、24時間体制で稼働させています。



仕組みとしては、気象庁からの緊急地震速報を受信すると予測震度や到達時間を瞬時に計算しお知らせするものです。詳細情報を事前周知することで地震に対する備えが可能になるものと考えています。さらに、毎年秋に大学内で実施する総合防災・防火訓練時に同システムを利用することで、より実践的な訓練が可能となり、大規模地震に対し機敏な対応が図れるものと期待しています。
(防災・防火委員会委員長 折出健二)

食まるファイブの縫製教材を開発(報告)

本学オリジナルの食育キャラクター「食まるファイブ」をモチーフにした家庭科教材「食まるファイブのオールインワン縫製教材」を加藤祥子教授(家政教育)が、このほど開発した。

教材は縦 140 cm、横 105 cm の綿製の布で、1 枚で手縫いやミシン縫いなどの練習ができる。線の色や種類によって切る、山折り、縫うなどの作業が表示され、待ち針を打つ順番も印刷されている。印刷通りに裁断すれば、巾着袋やランチョンマット、エプロンの三つの作品の生地にもなる。小学 5、6 年生が対象で、学校などで教材に役立てた後、完成した作品は給食や調理実習などにも利用できる。販売価格は 1 枚 1200 円。



加藤教授は「1 枚の布に縫製の授業に必要な要素を収めたことで複数の教材を購入する手間が省けます。生地が無駄をなくすため、余白を少なくする工夫もしました」とアイデアを凝らした優れたもの。子どもたちにおなじみの「食まるファイブ」とあって、家庭科教材も人気を呼びそう。

問い合わせは、加藤教授 Tel 0566・26・2477

E-mail: skato@aecc.aichi-edu.ac.jp

附属図書館で俳諧一枚摺を展示(お知らせ)

2012 年 2 月、附属図書館ホームページ内で「俳諧一枚摺デジタルアーカイブ」の公開が始まりました(アーカイブの詳細は、AUE News 第 36 号に掲載)。これを記念して、デジタルアーカイブに収録された当館所蔵の俳諧一枚摺について、その一部を附属図書館 2 階のアイ・スペース横で展示中です。



数々です。この機会にぜひご覧ください。

俳諧一枚摺は、一枚の用紙に印刷された俳諧に関する摺物のことです。江戸時代に流行し、正月の挨拶である歳旦や、季節の挨拶、祝い事などの際に作られました。この中には彩色摺の絵を添えた物や、暦が示されている物もあります。

今回は、アーカイブで公開中の資料の中から、特徴的な 7 点について現物を紹介しています。江戸時代の好事家による、趣向を凝らした作品の

(教育研究支援部 情報図書課 稲葉裕美)

教育支援サイト「簡単工作 100 選」公開(お知らせ)

身近な物を利用して作ることができる簡単な工作を紹介したサイト「簡単工作 100 選」

(<http://crafts.step.aichi-edu.ac.jp/>) を 3 月 9 日に公開しました。このサイトは、生活科教育講座野田敦敬研究室の卒業生が卒論として作成したデータベースをホームページ化したものです。作動原理別に、100 点の工作が収録されており、作り方、遊び方、製作時間の目安、予想される子ども達の反応などが写真入りで紹介されています。サイトを開設して 1 カ月が

経過しましたが、すでに2万2,000以上のページが閲覧され、大好評となっています。小学校の生活科等の授業で利用してください。

サイトへは、キーワード検索『工作100選』でアクセスできます。

(科学・ものづくり教育推進センター 佐々田俊夫)

催しもの案内

◆新入生歓迎ランチコンサート

4月18日(水) 12:30~13:15 入場無料

附属図書館2階 アイ♥スペース

音楽教育選修・専攻3、4年生による、独唱、ピアノ演奏、管楽器演奏。

◆愛知教育大学天文台「第71回一般公開」子どものための講座と観望会

4月21日(土) 13:30~16:00 入場無料、申込不要

自然科学棟5階・地学538教室、屋上天文台ほか。雨天の場合も観望会以外は開催。

13:30~14:30 子どものための天文工作教室「金環日食観測グッズを作ろう」、

14:30~15:00 子どものための天文ミニ講座「日食の安全な楽しみ方」、

15:00~16:00 観望会「太陽と金星の観望会」と「3D宇宙の旅」上映会。

問い合わせ: 理科教育講座 天文学研究室 TEL 0566-26-2624

<http://tenmon.phyas.aichi-edu.ac.jp/>

◆招へい教職員による第5回講演会

4月25日(水) 17:00~18:00

大学会館2階「中会議室」

講師: 南京師範大学(中国) 准教授 池建新氏

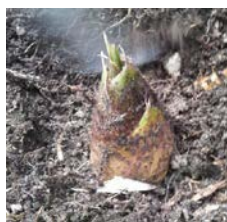
同

国際交流処科長 王秋文氏

問い合わせ: 国際交流センター TEL 0566・26・2179

編集後記

自然豊かな愛教大の自然観察実習園で、この春は「タケノコ掘り」を体験。お花見がてら出かけた散策路にも、地面を足裏で探るようにして歩くと、「ありました!」。



通路で成長して竹になり、その後の手入れに苦勞するなら、タケノコのうちに“自然の恵み”として有り難くいただくことで生かされるはず。初めてのタケノコ掘りに熱中して、腕や腰が痛くなりましたが、その日は早速、たけのこのお刺身、たけのご飯が食卓に登場。掘りたてのタケノコは柔らかく、美味しくいただきました。愛教大の自然に、感謝です。(K)

投稿のお願い

学内外の出来事(教育・研究・地域連携・国際交流・学内事業など)に関するニュースの提供をお待ちしております。

メール: kouhou@m.auecc.aichi-edu.ac.jp 編集責任者: 総務担当理事 折出 健二